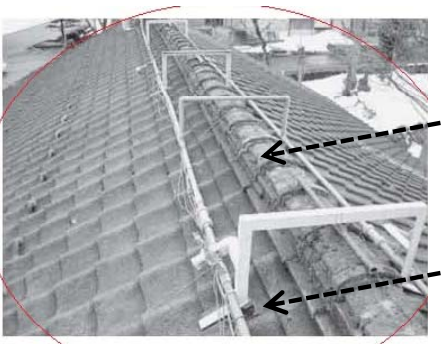
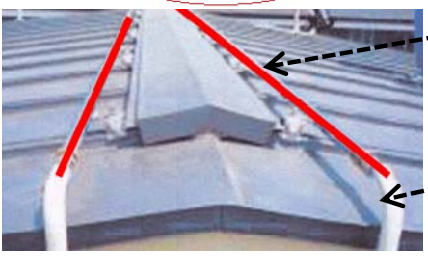
提案3

自然の脅威から身を守る屋根散水を安定して利用可能にする 分別集排水装置と中空棟の建築設備標準化案



写真－7　屋根上配管



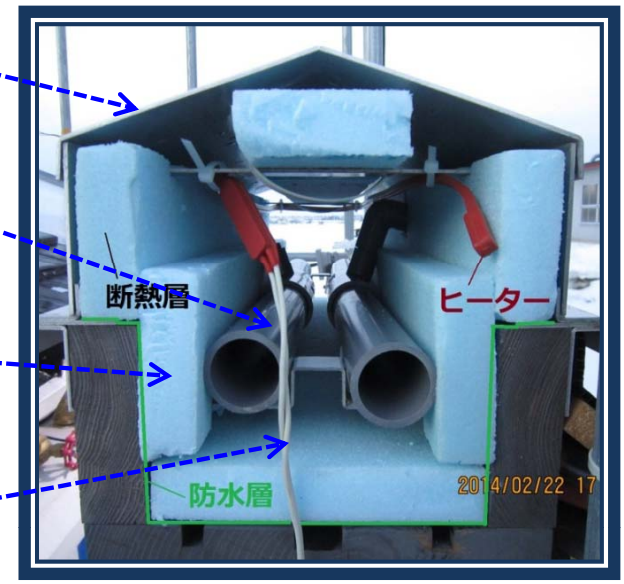
◆棟強度不足
アルミ中空棟◆

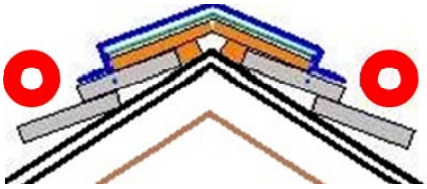
◆配管固定強度不足
専用金具◆

◆配管保温対策不足
断熱材◆

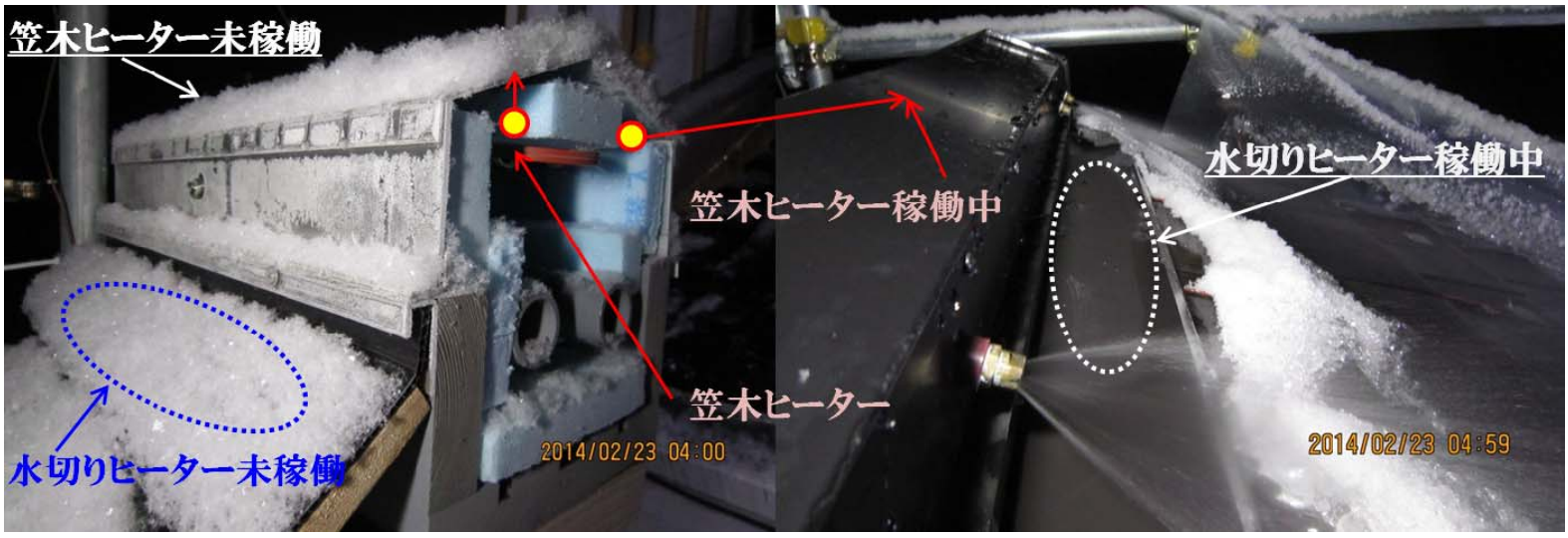
◆凍結破損対策不足
ヒーター◆

中空棟屋根散水用寒冷地仕様



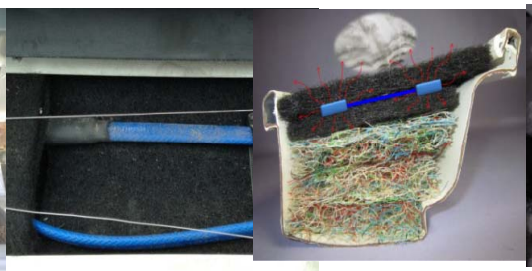


露出配管では防水を考慮した安全且つ確実な固定が不可能で、更に凍結防止、保温、紫外線劣化から守る保護ができません。



水切りヒーター【散水ノズル凍結保護】と笠木ヒーター【棟内温度管理】

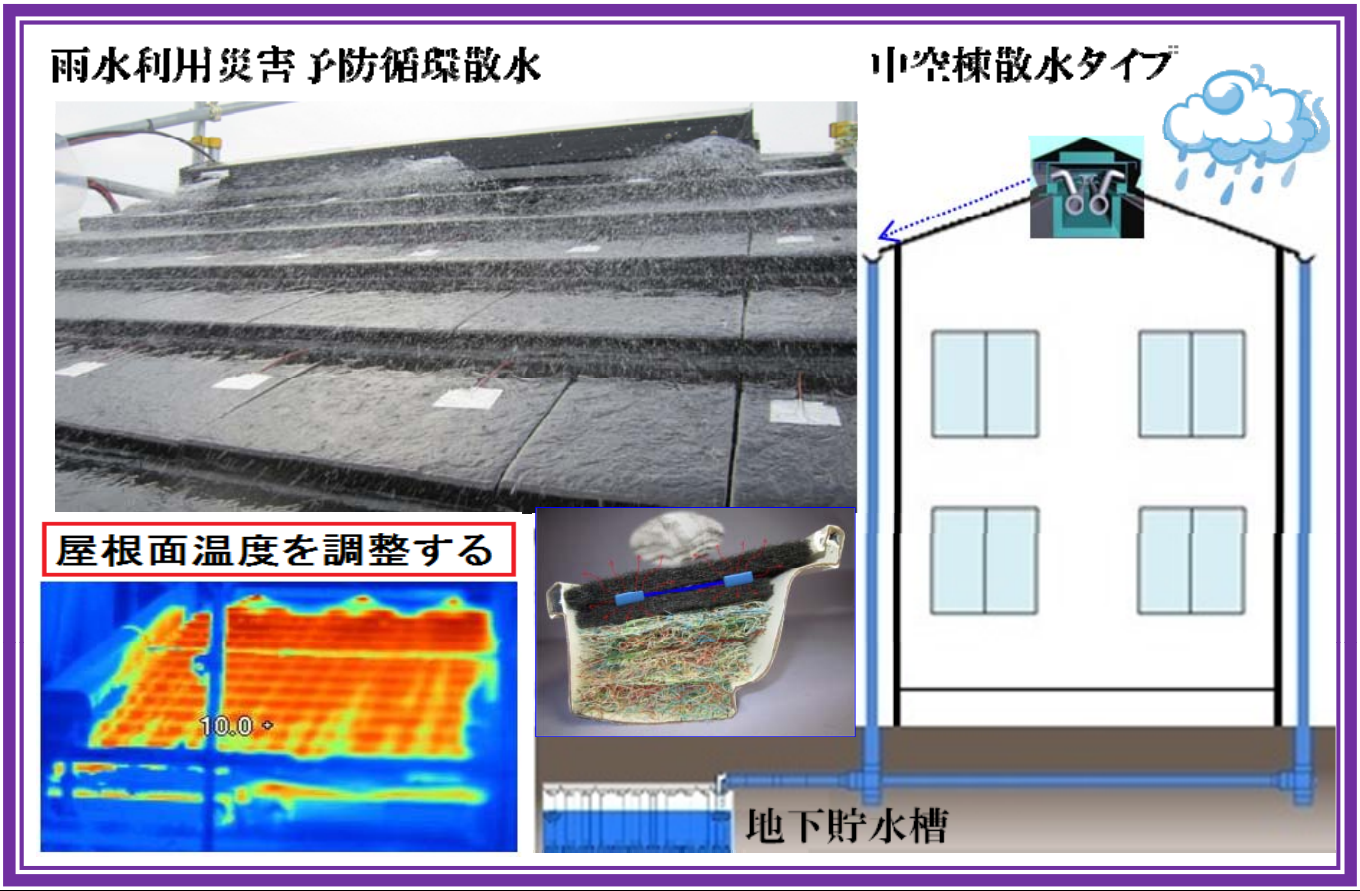
落ち葉がヒーターに
堆積能力ダウン



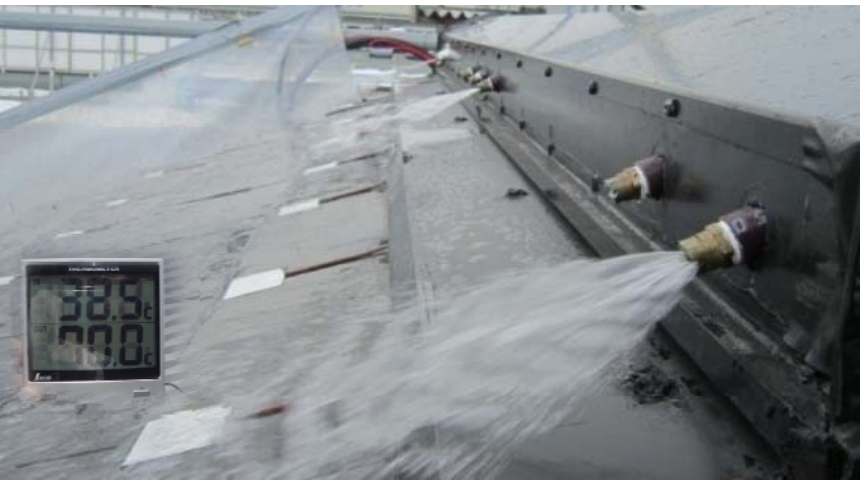
分別集水装置で
落ち葉ヒーターに附着無し

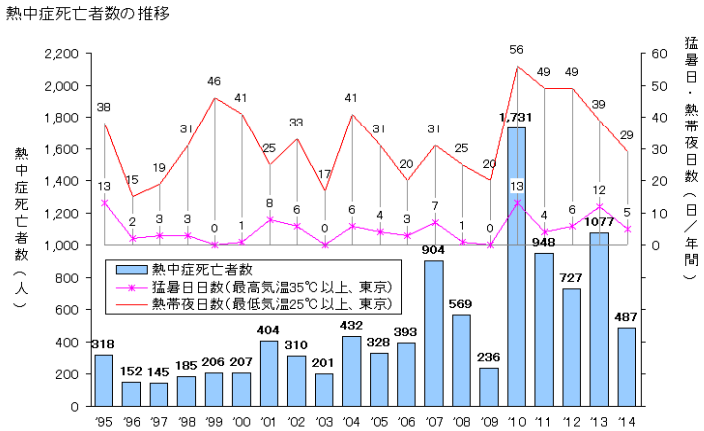
分別集水装置で
軒樋全体に熱が分散

地域一体で屋根面温度調整散水利用が
落雪事故＋雪下し事故＋熱中症事故を激減させる

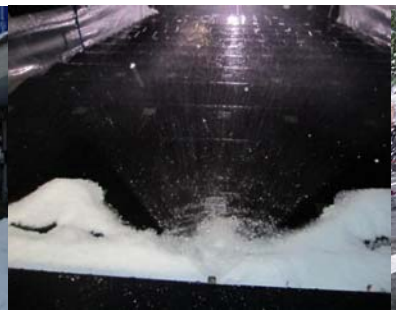


大雪に対する防災力の向上方策検討会参考	昭和60年大雪	平成12年大雪	平成16年大雪	平成18年豪雪	平成22年大雪	平成23年大雪
死者・行方不明者数	90	55	88	152	131	130





（注）熱中症死亡者数は厚生労働省調べ（14年は6～9月）、熱帯夜・猛暑日は気象庁調べ。
（資料）東京新聞大図解2011.6.12、人口動態統計



雪対策は積もってからの処理が基本でしたが、これからは積もらせないことで事故を無くす。
屋根面温度を循環散水で上げて着雪を防ぐ。屋根面温度も70度に成りますので打ち水は屋根にも必要。